

北海道教育大学旭川校における教員養成の取り組み

—学外との連携を中心に—

大鹿 聖公

OHSHIKA Kiyoyuki

北海道教育大学旭川校

【キーワード】 教員養成, カリキュラム, 社会教育施設, 教育実習, チェックリスト

1 北海道教育大学旭川校における理科教員養成

北海道教育大学は北海道内に5つのキャンパスをもつ教員養成大学であるが、平成18年度よりキャンパスごとに課程再編を行い、旭川校では各教科教育専攻の内容の改善・充実を図った中学校教員養成課程を中心とした教員養成課程となった。それに従い、教員養成に関するカリキュラムも刷新された。このカリキュラムの中心として、社会の変化に伴って学校や地域社会が求める実践的な指導力の育成が設定され、これを実現するために「教育実践フィールド科目」が開設された。

教科専門科目においても、理科教員養成のための充実として、教科の専門性、指導力といった教科に特有な資質・能力の育成が課題とされた。理科では科学的な素養として、理科の専門性を高めると同時に、自然科学に関する素材や題材を教育内容・教育資源としてどのように活用するか、展開するかが課題となっている。

2 教育実践フィールド科目と教育実践改善チェックリスト

教育実践フィールド科目は、教育の理論と実践とをつなぐ重要な科目群として設定され、「教育実習」に加え、「教育フィールド研究」及び「教育実践論」の三つの柱からなっている。これらを総合的に履修することで、学生の学習意欲と自己成長力を高めることをねらいとしている。

これらのうち、広く教育現場や地域・社会での実習・体験により、実践的能力を獲得させる目的で「教育フィールド研究」が設定され、特に理科に関係するものとしては、旭山動物園、旭川市博物館科学館（昨年度までは、旭川市博物館・旭川市科学館の2つの別組織）、川のおもしろ館（石狩川治水学習館）があり、これらの社会教育施設などにおける活動をボランティアとして取り組み、自己成長をはかっている。

これらの教育実践フィールド科目では、評価方法の一部に、自己評価の手法を積極的に活用するための教育実践改善チェックリストが導入されている。

このチェックリストは、教師に求められる7つ

の資質（学習指導力、生徒指導力、教育相談力、学級経営力、地域教育連携力、協働遂行力、臨床的実践力）を設定し、学生各自がそれぞれの資質の中から、履修する実習や科目に応じて、自身の達成目標を設定し、履修の前後でどのように達成・変化したかをチェックするようになっている。

この自己評価を振り返ることで、学生自身が教師としての資質と能力の習得度を計り、自己評価を促すものとなっている。

3 理科における社会教育施設との具体的な連携

理科教育専攻では、上記の教育フィールド研究において、旭川市科学館、旭山動物園、石狩川治水学習館と連携した活動を行っている。一年間を通した科目として、そのうちの9か月間に60時間の活動時間が設定され、それぞれの施設で活動を実施している。科学館では科学ボランティアとして設備や器具の説明や補助、動物園では子ども対象としたサマースクールのサポート、ポスター作成、治水学習館では川下り体験サポートなど、自然や科学に関する知識や体験、技能・能力を獲得すると同時に、子どもへの説明能力、コミュニケーション能力などを深めることが可能である。履修した学生の中には、履修後も科学ボランティアとして活動を継続するものもみられるなど、教育連携の基礎がつけられている。

また、理科教材開発実習という科目では教育現場における教材開発研究と授業実践を含めた実習を行っている。この授業でも上記の施設と連携した取り組みを進め、地域の資源の活用、教育施設の活用を進めるようにしている。さらにJSTによる理科支援員やSPPプログラム理数科教員指導力向上研修などにも学生を積極的に参加、支援させることで、学生・教員・専門家の3者をつなぐネットワークの構築を行い、生涯的な教員養成を支援できるようにしている。

参考文献

- 北海道教育大学教育研究委員会(2008) 『学び続け自己を高める教師をめざして—教育実践フィールド科目ハンドブック—』